

考えてみませんか？

あなたの人権 わたしの人権

2012(平成24)年度人権問題に関する市民意識調査から



(平成24年度 人権啓発絵手紙 代表作品 向井喜八さん)

松山市・松山市人権教育推進協議会

設問

問1 あなたは、今の日本の社会では人権が尊重されていると思いますか、思いませんか。次の中から1つお選びください。

- 1 十分尊重されている
- 2 おおむね尊重されている
- 3 どちらともいえない
- 4 あまり尊重されていない
- 5 まったく尊重されていない

問2 あなたは、人権問題に、日ごろからどの程度関心がありますか。次の中から1つお選びください。

- 1 おおいに関心がある
- 2 少しは関心がある
- 3 どちらともいえない
- 4 あまり関心がない
- 5 まったく関心がない

問3 あなたが、理想とする女性の働き方として、最も近いのはどれですか。次の中から1つお選びください。(男性の方もお答えください)

- 1 一生職業をもつ
- 2 結婚ないし出産まで職業をもち、子どもに手がかからなくなってから再び職業をもつ
- 3 結婚ないし出産までは職業をもつが、それ以後は家庭のことに専念する
- 4 わからない

問4 あなたは、子どもに対する体罰に関して、どのようにお考えですか。次の中から1つお選びください。

- 1 親であれ教師であれ、子どもに対する体罰はみとめられない
- 2 親が自分の子に体罰を加えるのは時には必要だが、教師の体罰はみとめられない
- 3 親や教師が、子どもに体罰を加えることも時と場合によっては必要である
- 4 わからない

問5 一人ぐらしの高齢者に家や部屋を貸すのを断る家主がいますが、あなたはどのようにお考えですか。次の中から1つお選びください。

- 1 他の人と同様に入居させるべきだ
- 2 近くに家族が住んでいれば、入居させてもよいと思う
- 3 何かあった場合、周囲の人が迷惑するので、入居を断る方が結果的にはよい
- 4 わからない

問6 日本に居住している外国人の人権について、あなたはどのようにお考えですか。次の中から1つお選びください。

- 1 日本国籍を持たない人でも、日本人と同じように人権は守られるべきだ
- 2 日本国籍を持たない人は、日本人と同じような権利は持っていなくても仕方がない
- 3 どちらともいえない
- 4 わからない

問7 もし職場の同僚がエイズ患者・HIV感染者とわかった場合、あなたはどのように思いますか。次の中から1つお選びください。

- 1 今までどおりにつきあう
- 2 その人が職場にいるのはかまわないが、一緒に仕事をしたくない
- 3 その人には、できれば職場をやめてもらいたい
- 4 わからない

問8 障がい者がくらす施設が地域に設置されようとした時に、地域住民が反対することがありますが、あなたはどのように思いますか。次の中から1つお選びください。

- 1 反対する人の気持ちがわからない
- 2 反対する人の気持ちもわかる
- 3 そうした施設は、住宅地から離れた迷惑にならないところにつくればよい
- 4 わからない

問9 次にあげるA、B、Cについて、あなたはどのように思いますか。次の中からそれぞれ1つお選びください。

A 結婚式や葬儀を行うときに、「大安」・「仏滅」や「友引」などを気にしますか、気にしませんか。

- 1 気にする
- 2 少しは気にする
- 3 あまり気にしない
- 4 気にしない

B あなたの身内の結婚のときに、相手の家柄などを気にしますか、気にしませんか。

- 1 気にする
- 2 少しは気にする
- 3 あまり気にしない
- 4 気にしない

C 葬儀の後で、「清め塩」をまくことについてどのように思いますか。

- 1 ケガレをはらうためにまくべきだと思う
- 2 慣習なのでまく方がいいと思う
- 3 まく必要はないと思う
- 4 わからない

問10 あなたは、今なお同和問題（部落差別）にかかわる差別があると思いますか、思いませんか。

- 1 まだまだあると思う
- 2 少しは残っていると思う
- 3 なくなったと思う
- 4 わからない

問10-2 問10で、「1」または「2」を選んだ方におたずねします。それはどんな時ですか。あてはまるものをすべてお選びください。

- 1 結婚のとき
- 2 進学するとき
- 3 就職のとき
- 4 居住地を聞かれたとき
- 5 職場でのつきあいのとき
- 6 近所づきあいのとき
- 7 その他（具体的に： _____）

問11 もし家族から同和問題について差別的な話が出たとき、あなたならどうしますか。次の中から1つお選びください。

- 1 自分で差別のまちがいを説明する
- 2 説明する自信がないので、そのままにしておく
- 3 自分には関係のないことだから、そのままにしておく
- 4 家族の意見にあわせてしまう
- 5 その他（具体的に： _____)

問12 あなたは、次にあげる団体やグループとのかかわりは、現在どの程度ですか。それぞれについてお答えください。

A 自治会・町内会

- | | |
|---------------|---------------|
| 1 よく参加している | 2 ときどき参加している |
| 3 ほとんど参加していない | 4 まったく参加していない |

B 趣味やスポーツの団体

- | | |
|---------------|---------------|
| 1 よく参加している | 2 ときどき参加している |
| 3 ほとんど参加していない | 4 まったく参加していない |

C ボランティア団体

- | | |
|---------------|---------------|
| 1 よく参加している | 2 ときどき参加している |
| 3 ほとんど参加していない | 4 まったく参加していない |

D PTAまたは保護者会

- | | |
|---------------------------|---------------|
| 1 よく参加している | 2 ときどき参加している |
| 3 ほとんど参加していない | 4 まったく参加していない |
| 5 PTAや保護者会と関係する年代の子どもがいない | |

問13 あなたが、もし、病気で2週間寝込んだとします。家族以外で、いくらかでも手助けを期待できるのは、次の中では誰でしょうか。あてはまるものをすべてお選びください。

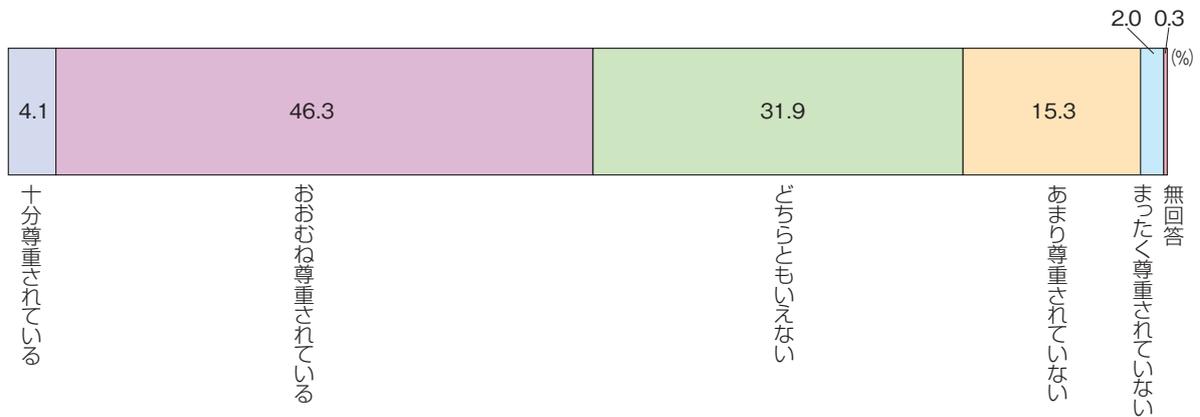
- | | | | |
|-------------------------|----------|----------|---------------|
| 1 親戚 | 2 職場の人たち | 3 近所の人たち | |
| 4 知人（親戚・職場・近所の人たち以外の知人） | | | 5 いずれの人にも頼めない |

問14 あなたは、松山市では、人権啓発施策に関する基本方針を策定していることをご存知ですか。次の中から1つお選びください。

- 1 知っている
- 2 知らない
- 3 その他（具体的に： _____)

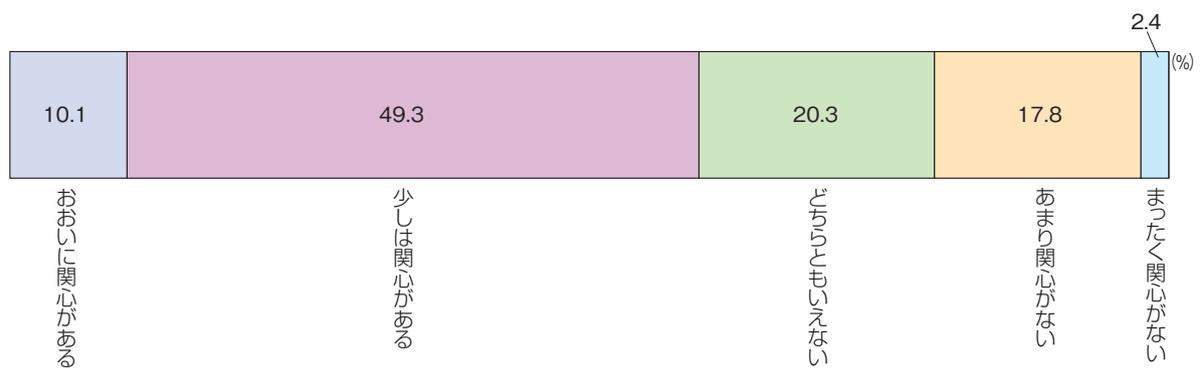
人権及び人権問題に関する意識

問1 今の日本の社会では人権が尊重されていると思いますか、思いませんか。



約5割の人が「十分尊重されている」「おおむね尊重されている」と答えており、調査ごとに増えている。人権課題が多様化しているなかで、身近なところに人権が存在し、日々の暮らしとかわかっているということに人々の目が向くようになり、人権保障の考え方が少しずつ定着してきていると考えられる。

問2 人権問題に、日ごろからどの程度関心がありますか。



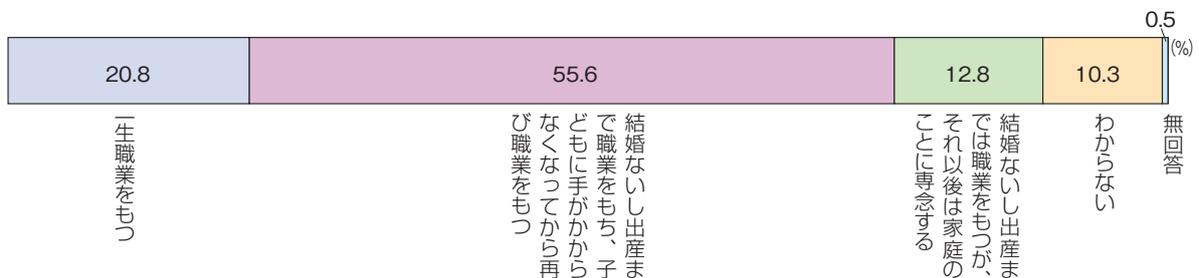
人権問題への関心度は「関心がある」が約6割であり、前回に比べ低下している。これは、社会状況の変化に伴い日々の生活に精一杯で、人権問題に限らず社会に対する関心が低下していることと関連があると考えられる。そこで、公的機関等が「ひと」「もの」「こと」などでネットワークを生かし、様々な問題の解決を自分のこととして取り組む機会を提供していくことが必要である。

個別の人権問題に関する意識

問3

女性

あなたが理想とする女性の働き方として、最も近いのはどれですか。
(男性の方もお答えください)



女性の人権に関する法的な整備が進み、今日の経済的な状況から、女性が働いて家庭の経済を支える共働きが増えてきている。また、男女共同参画に関する啓発活動を通して、「男性は外で働き、女性は家庭を守る」という従来の固定的な性別役割分担意識にとらわれず、自分らしい生き方や働き方を選択する意識が高まってきていると考えられる。

問4

子ども

子どもに対する体罰に関して、どのようにお考えですか。

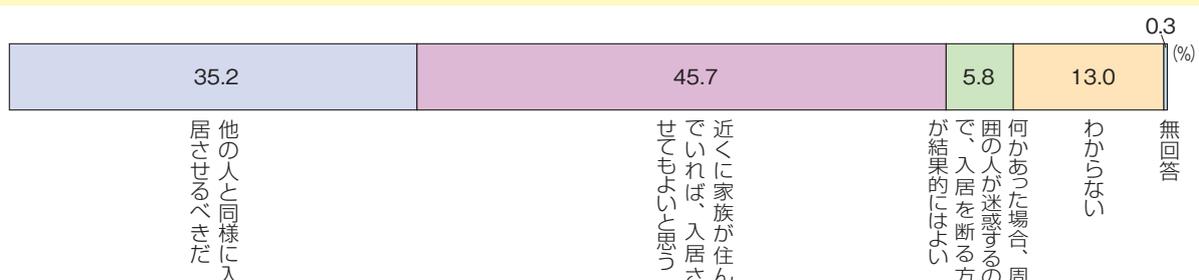


体罰を容認する考え方は男性・女性共に非常に高い。しつけは子どもを主体として考えるが、体罰や虐待は大人が主体である。児童虐待防止法の趣旨を理解し、子どもの生命、人権を守る取組が必要である。

問5

高齢者

一人ぐらしの高齢者に家や部屋を貸すのを断る家主がありますが、どのようにお考えですか。

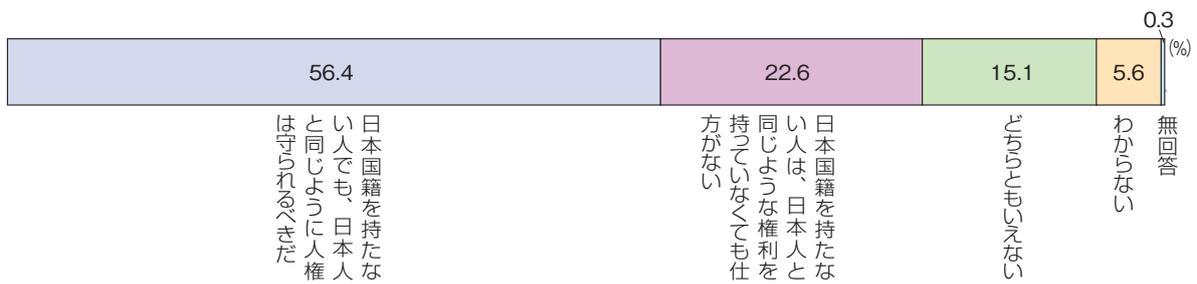


世界で最初に超高齢社会となり、社会全体の仕組みも大きく変わってきつつある我が国において、高齢者の人権を守る取組の必要性は論を待たない現状にある。孤独死、孤立死、無縁社会が大きな社会問題となっており、高齢者の人権を守り、豊かな老後を保障していく取組が必要である。

問6

外国人

日本に居住している外国人の人権について、どのようにお考えですか。



国際化が進み、学校教育の中で外国人とかがかわる機会が多くあることで、若年層における外国人に対する理解は深まっている。世界人権宣言にあるように、国籍や人種等にかかわらずお互いに人権を尊重し合うことができるよう理解を深めるための研修会等を、幅広い年代で行う必要がある。

問7

エイズ

もし職場の同僚がエイズ患者・HIV感染者とわかった場合、どのように思いますか。

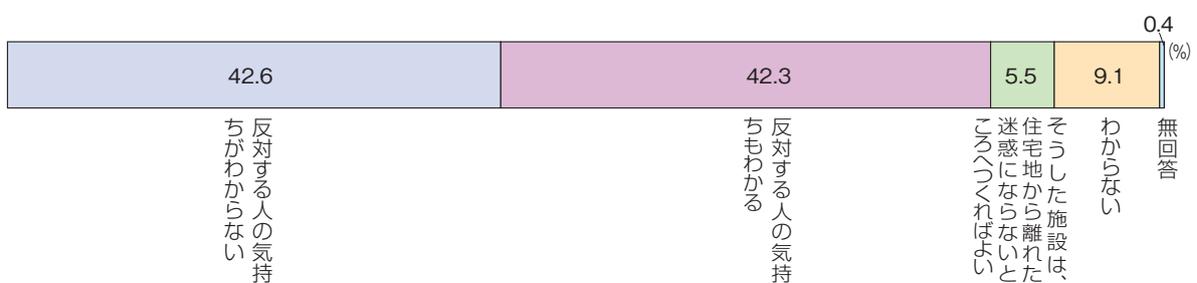


約5人に1人が「わからない」と答えており、エイズ患者等への理解がまだまだ十分でないが、研修会等への参加回数が多い人ほど「今までどおりにつきあう」と答えている。本人やその家族が、周囲の人の誤った知識や偏見で苦しむことがないように、正しい理解に努めることが大切である。

問8

障がい者

障がい者がくらす施設が地域に設置されようとしたとき、地域住民が反対することがありますが、あなたはどのように思いますか。

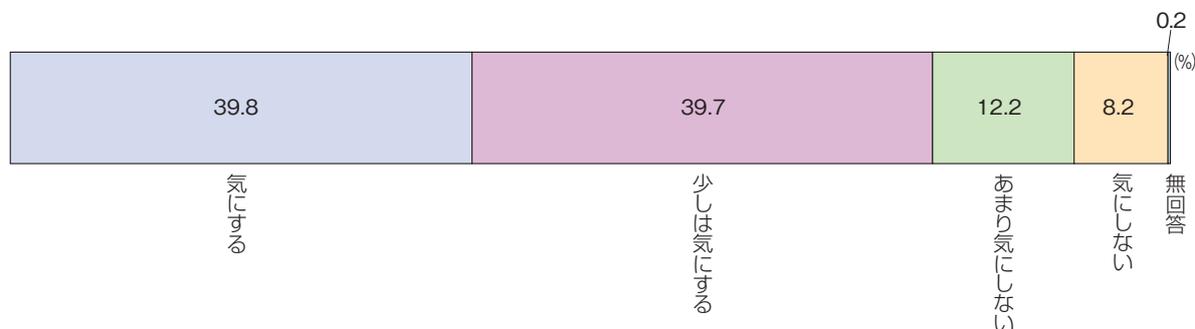


障がい者施設等の建設に際し、「反対する人の気持ちかわからない」とする回答が「反対する人の気持ちもわかる」とする回答を初めて逆転した。障がい者施設や障がい者への理解が進んでいることの表れと考えられる。障がいのある人の自立と社会参加を促すとともに、だれもが参加できる共生社会をつくっていく必要がある。

因習に関する意識

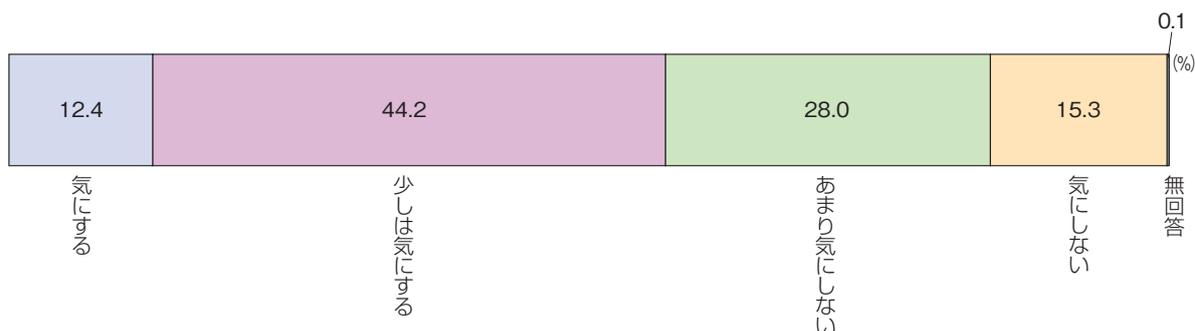
問9
A

結婚式や葬儀を行うときに、「大安」「仏滅」や「友引」を気にしますか。気にしませんか。



問9
B

あなたの身内の結婚のときに、相手の家柄などを気にしますか、気にしませんか。



問9
C

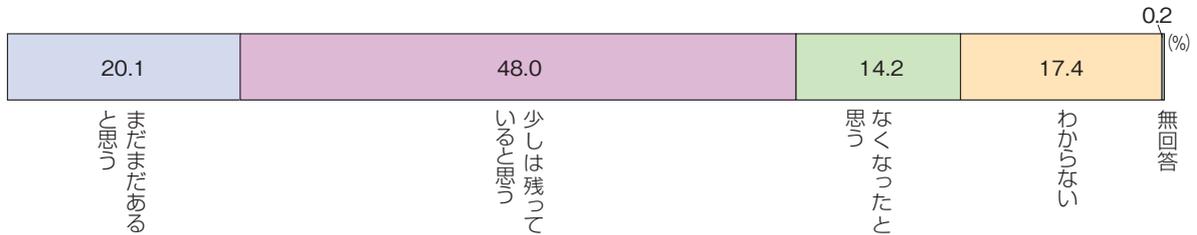
葬儀の後で、「清め塩」をまくことについてどう思いますか。



因習に関する意識は、若年層ほど「気にしない」傾向がみられるが、因習に関する正しい認識が浅いことも一因と考えられる。「因習」や「迷信」が世間体にとらわれる生活環境をつくり、差別を温存している社会につながっている。因習によって差別意識が助長されないよう、差別に対する正しい認識を深めていく必要がある。

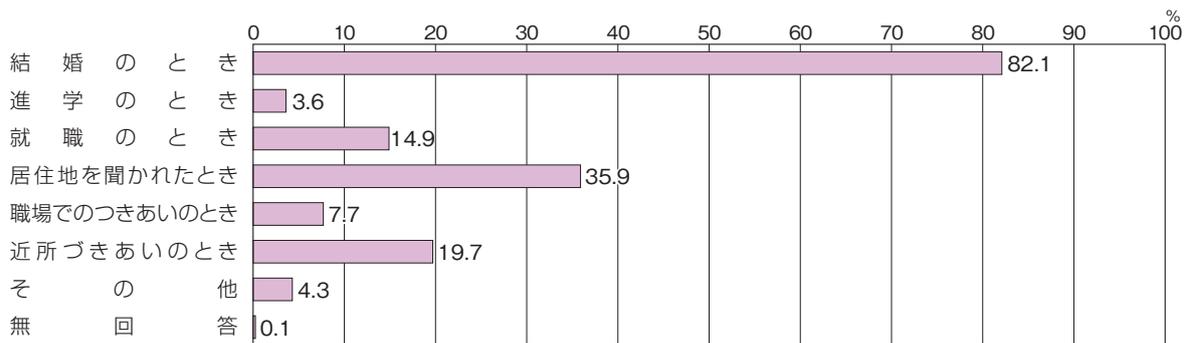
同和問題に関する意識

問10 今なお同和問題（部落差別）にかかわる差別があると思いますか。思いませんか。



この10年間で「なくなっただと思う」が増加し、「まだまだあると思う」が減っている。同和問題にかかわる差別が、少しずつ解消に向かっていると考えられる。

問10-2 上の質問で、「まだまだあると思う」または「少しは残っていると思う」を選んだ方に
おたずねします。それはどんな時ですか。[複数回答]



過去の調査でも「結婚のとき」が一番多く80%を超えており、まだまだ啓発活動の継続的な実施が欠かせないが、「結婚のとき」と答えた人の割合は、2002年89.5%、2007年84.7%、2012年82.1%と着実に減少しており、少しずつ解消に向かっていると考えられる。

問11 もし家族から同和問題について差別的な話が出たとき、あなたならどのようにしますか。



「自分で間違いを説明する」がこの10年間で減少傾向にあるが、研修会等への参加回数が多い人ほど「自分で間違いを説明する」と答えている。「自信がない」「関係ない」「家族の意見に合わせる」という回答が41.3%あり、家族間で人権問題に関心を持ち、人権問題の解決に向けた話し合いができるよう取組を進める必要がある。

社会活動・社会関係に関する意識

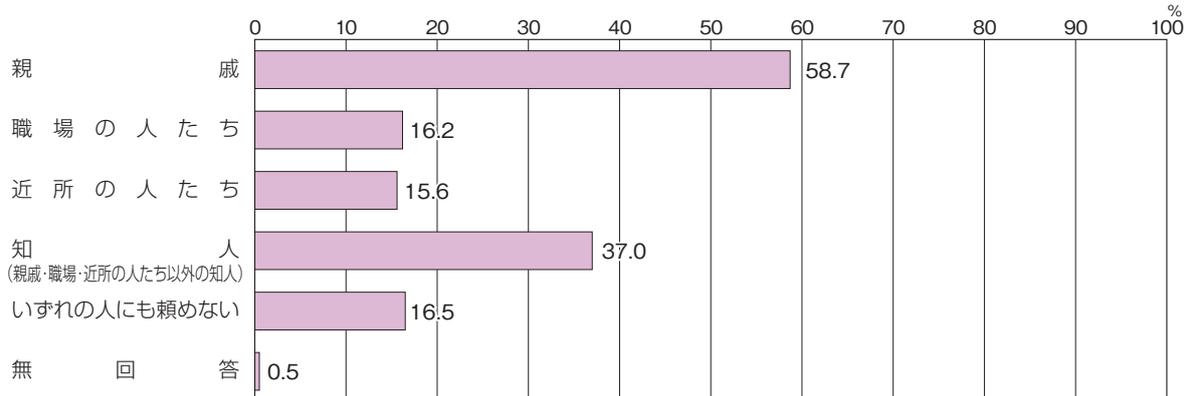
問12

あなたは、次にあげる団体やグループとのかかわりは、現在どの程度ですか。それぞれについてお答えください。



問13

あなたが、もし、病気で2週間寝込んだとします。家族以外で、いくらかでも手助けを期待できるのは、次の中で誰でしょうか。当てはまるものをすべてお選びください。



「知人に期待する」割合は女性が多いが、男女ともに年代が上がるにつれ「知人に期待できない」割合が高くなる。60代以上の高齢者では「知人に期待する」割合が30%以下である。職業をもっている世代では、手助けを「職場の人に期待できる」割合が高いが、退職する60代から「期待できない」が90%を超える。いずれの人にも頼めないと答えた人は、40代を除きどの年代も男性が多い。

今後は、男性が仕事をしながら、地域社会とつながりをもてるようにするための意識啓発や環境整備が必要と考えられる。

人権教育・啓発活動の評価

人権問題の研修会への参加状況からみた人権問題への関心度

なし	関心度 (%)			
	おおいに関心がある	少しは関心がある	どちらともいえない	関心がない
	9.0	47.2	21.2	22.7
1～2回	14.3	58.1	16.8	10.8
3～5回	10.2	59.9	16.3	13.6
6回以上	30.4	41.3	17.4	10.9

人権問題に関心のある人は、研修会等へ参加する回数の増加とともに関心度の高まりがみられる。学校や公民館、職場等における人権教育・啓発活動への参加回数や地域の社会活動とのかかわりが多い人ほど関心度が高い。

人権問題の研修会への参加状況からみた差別発言への対応状況

なし	対応状況 (%)				
	自分で説明する	説明する自信がないのでそのまま	自分に関係ないのでそのまま	家族の意見に合わせる	その他
	44.8	24.9	13.2	7.9	9.3
1～2回	59.7	18.7	6.6	5.9	9.2
3回以上	73.5	11.6	6.9	4.8	3.2

研修会等への参加回数が多い人ほど、「自分で差別の間違いを説明する」と答えており、様々な人権課題に関する学習の蓄積により、自信を持って説明できる傾向がみられる。多くの人が研修会等へ出席して、様々な人権課題について正しく学ぶことが、人権問題の解決につながると考えられる。

人権問題の研修会への参加状況からみた社会活動とのかかわり

活発	参加状況 (%)			
	なし	1回～2回	3回～5回	6回以上
	51.1	31.2	11.7	6.1
やや活発	71.7	16.4	9.8	2.1
やや不活発	79.3	12.6	7.0	1.2
不活発	88.6	6.2	3.7	1.5
なし	89.2	6.1	3.3	1.4

社会活動が活発で、社会関係が豊富な人ほど、人権問題の研修会等への参加経験をもつ人が多くなり、人権啓発活動や様々な人権問題に対する認識も深まるとともに、人権意識が高まる傾向がある。

松山市人権啓発施策に関する基本方針 (抜粋)

基本方針

全市民の人権が尊重されることを目標に掲げ、市民と行政が一体となって、あらゆる人権問題の解決に努めます。

主要項目

- ◎あらゆる場を通じた人権教育・啓発施策の推進
- ◎重要課題等へのきめ細かな施策の推進
- ◎総合的で効果的な推進体制等の確立

スローガン

『「誇れる」人権尊重で笑顔に』
～人にやさしい、人がやさしいまち 松山～

人権教育・啓発の推進と重要課題 (松山市人権啓発施策に関する基本方針より)



あらゆる場を通じた人権啓発

- 家庭
- 学校
- 地域社会
- 企業

職務上、人権にかかわりの深い職業従事者

- ① 検察職員
 - ② 矯正施設・更正保護関係職員
 - ③ 入国管理関係職員
 - ④ 学校教育・社会教育関係職員
 - ⑤ 医療関係者
 - ⑥ 福祉関係職員
 - ⑦ 海上保安官
 - ⑧ 労働行政関係職員
 - ⑨ 消防職員
 - ⑩ 警察職員
 - ⑪ 自衛官
 - ⑫ 公務員
 - ⑬ マスメディア関係者
- ※人権教育に関する取組強化と充実が求められています。

調査目的

同和問題をはじめ様々な人権問題を解決し、誰もがしがあわせに生きることのできるまちづくりを目指すため、「人権問題に関する市民意識調査」を実施しました。

この調査結果を分析・検討し、本市における人権教育及び啓発の取組の成果と残された課題を確認するとともに今後の人権教育及び啓発の推進に役立てます。

調査期間

2012（平成24）年9月24日～10月9日

調査設計

調査対象：松山市内に在住する15歳以上79歳以下の男女

標本数：4,000名

抽出方法：住民基本台帳より単純無作為抽出

調査方法：郵送調査

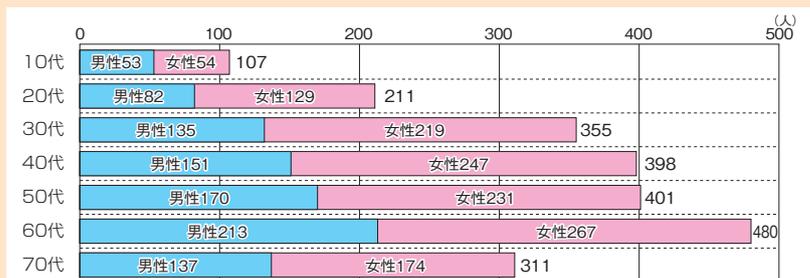
回収結果

標本数 4,000

有効回収数 2,301

回収率 57.5%

(性別・年代を記入していない人がいた)



発行：松山市人権教育推進協議会

松山市二番町4丁目7番地2（人権啓発課内）

TEL 089-948-6604 FAX 089-934-1742